

牛の下痢・呼吸器病に注意しましょう！

冬になると、寒暖差のストレスが引き金となって牛の下痢や呼吸器病が集団で発生することがあり、平成30年には当所管内において牛ロタウイルスによる集団下痢が発生しました。

牛の下痢・呼吸器病の原因となる細菌やウイルスは、栄養状態の悪化や環境ストレス（換気不良、急な温度変化、密飼い）、輸送ストレス等により感染、増殖しやすくなります。

農場への病原体侵入を防ぐため、**裏面の発生予防の重要ポイントを参考に予防対策を徹底**しましょう。

牛の下痢・呼吸器病とは

(原因)

コロナウイルス、ロタウイルス、RSウイルスなどのウイルスや細菌、マイコプラズマ

(症状)

【牛コロナウイルス病】

- ・子牛
乳白色～黄色の水様下痢・発咳・鼻汁
- ・成牛
冬季赤痢・発咳・鼻汁

【牛ロタウイルス病】

- ・子牛
黄色、淡黄緑色、乳黄色下痢便・発熱
- ・成牛
泥状～水様下痢

【牛RSウイルス病】

- ・5～6日の稽留熱・湿性の発咳・膿性鼻汁・皮下気腫
- ・伝播スピードが速い
- ・細菌、マイコプラズマとの混合感染では症状が悪化。



ロタウイルスによる水様性下痢

発生予防の重要ポイント

《畜舎の環境整備》

- ① 密飼いを避け、換気を十分に行う。
- ② 清掃、消毒を徹底し、床をよく乾燥させる。
- ③ 敷料をこまめに交換する。
- ④ 踏込み消毒槽を設置し、関係者以外の畜舎の出入りに注意する。



消石灰散布



踏込消毒槽の設置

《ストレスの軽減》

- ① 適切な飼養管理を徹底する。
- ② 輸送や導入時には十分な給水、ビタミン等の投与を実施する。

《子牛の管理》

- ① 子牛が生まれたら体をよく拭き被毛を早く乾燥させる。
- ② 寒冷期には寒さから守る対策（家畜用ヒーターなど）を実施する。

《導入牛の管理》

導入後約2週間は隔離飼育し、健康観察を実施する。

《ワクチンの接種》

IBR 5種混合ワクチン、牛下痢 5種混合不活化ワクチンなどのワクチンは、病気の発症を予防し、万が一発症しても軽症で済むことが期待できます。

詳細は診療獣医師または家畜保健衛生所にご相談ください。

対処が遅れると近隣農家へ感染が拡大する恐れがあります。

異状を感じたらすぐにむつ家畜保健衛生所まで連絡してください。



0175-22-1254

(夜間・休日 090-5841-6810)